

※ 別紙の「観光素材集2025年版」も併せてご覧ください

御本宮 格天井(ごうてんじょう)の「桜樹木地蒔絵」(おうじゆきじまきえ)

明治11(1878)年の御本宮の改築に伴い、その天井と壁には東京の蒔絵師・山形治郎兵衛らによる「桜樹木地蒔絵」が施されていました。120年に及ぶ年月で傷みが進んだことから、平成11(1999)年より復元プロジェクトが開始し、平成16(2004)年に復元が完了しました。

復元の監修は、後に香川県独自の「蒔番(きんま)」の技法で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された山下義人氏(平成25(2013)年に認定)が行いました。

もともと桜の花には、銀の薄板が貼られていました。銀は表面が硫化すると黒くなり、年月によって剥離しやすいため、監修の山下義人氏は、復元では金粉とプラチナ箔を3枚重ね、桜の形を表現しました。

木地となるヒノキ材は、直径1メートル余りの大木から製材されて10年以上経つ良材が138枚使用されています。

※木地蒔絵とは
桜や桐、樺、桑など柾目(まさめ)や柵目(もくめ)の美しい白木の肌に、漆塗りをせず、直接蒔絵を施す技法

桜の絵柄が1枚1枚異なり、うっとりする美しさ。



▲御本宮の格天井に描かれた復元後の「桜樹木地蒔絵」



▲金粉とプラチナ箔を重ねた復元後の桜



復元の監修者
人間国宝
山下義人氏



▲御本宮本殿に今も残る建築当時の桜



▲桜の絵柄がさまざま

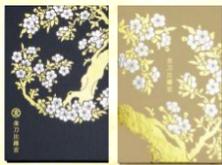


▲江戸末期に建てられた旭社は、1982年に国の重要文化財に指定されました。神仏分離以前、金毘羅大権現の金堂として建立されたものが今に残っています。軒や梁、柱、扉にある人や鳥獣、草花など見事な装飾は必見。

重要文化財指定記念品ほか 守札・授与品・縁起物



幸福の黄色いお守り



桜蒔絵御朱印帳



親子守り

例大祭(れいたいさい)



「お下がり」
総勢約600名の人々が
練り歩くその姿は
平安絵巻さながら!

21:00 御本宮発御
日付が変わる頃に御旅所
へ到着

金刀比羅宮で、もっとも重要な例大祭。宵宮祭(よいみやさい)、例祭(れいたいさい)、御神輿渡御(ごしんよとぎょ)が10月9日~11日の3日間にわたって行われます。特に、10月10日の「お下がり」では、豪華な金色の御神輿や貴重な御神宝の数々が1年に1度琴平山のふもとの門前町に厳かに下りてくると、参道は更に厳肅な雰囲気となります。10~11日の御旅所周辺は様々な催しや屋台で賑わいます。

食事・カフェ

石段500段目にある『カフェ&レストラン神椿』は、金刀比羅宮唯一の飲食店。こんぴらさんの森が見渡せる空間のレストランは地産地消をモットーに地元の食材を使用したコース料理を楽しめます。カフェテリアでは人気の「神椿パフェ」を中心としたスイーツや軽食など、参拝の方の憩いの場となっています。



讃岐の伝統菓子「おいり」がトッピングされた神椿パフェ



カフェ店内▶



▲レストラン店内



▲料理長がこだわりの食材を集めた本格フレンチのコースの一品

こんぴら礼讃



金刀比羅宮「御本宮」など社殿群12棟が国の重要文化財指定に!

明治初頭の神仏分離により、神社として再興するため境内を再編しており、明治政府の宗教政策への対応を示す貴重な事例です。

社殿には独自の意匠が施され、渡り廊下など一連の施設と共に優れた景観を形成しており、御本宮は仏教色を排して素木(しらき)造りを採用し、天井には蒔絵(まきえ)で桜の模様を施されるなど、歴史的・文化財的価値が高く、見どころがたくさんあります。



▲御本宮と御別宮をつなぐ南渡殿



▲建築当時の桜樹木地蒔絵が見られる!



▲御本宮(明治以降、素木造りの社に)



▲御本宮からは瀬戸大橋や讃岐平野を一望できる

奥書院

通常非公開である奥書院は、江戸前期に建てられ、1955年に国の重要文化財に指定されました。「上段の間」は、伊藤若冲の「百花の図」で、床の間、壁、襖と、四方が201図の草花で包まれています。



▲伊藤若冲「百花の図」

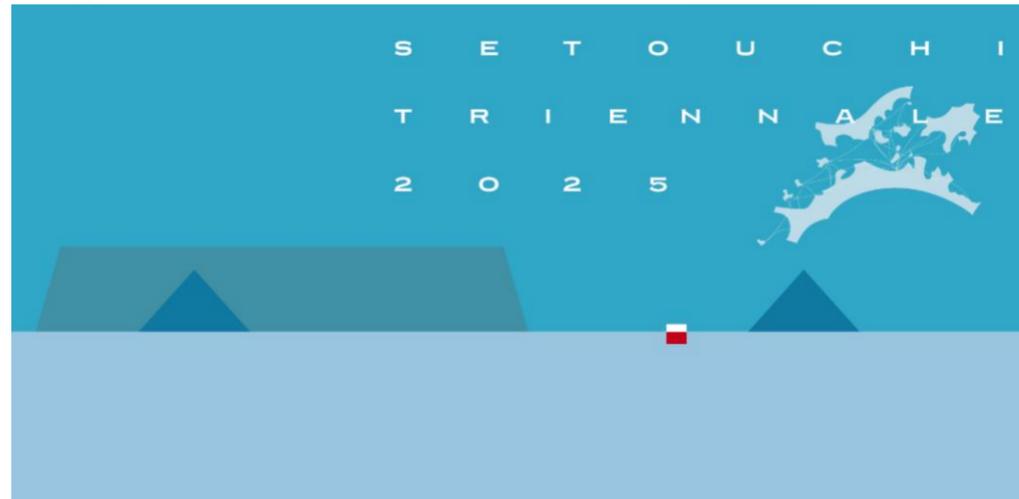
表書院

諸儀式や参拝に訪れた人々との応接の場として用いた表書院は、江戸前期に建てられ、1955年に国の重要文化財に指定されました。江戸時代を代表する天才絵師・円山応挙が障壁画を5つの部屋に連ねて描く圧巻の構成です。



▲円山応挙「遊虎図」(西面)

瀬戸内国際芸術祭2025



瀬戸内国際芸術祭2025 開催日程
 春 4月18日(金)~5月25日(日) 38日間 夏 8月1日(金)~8月31日(日) 31日間 秋 10月3日(金)~11月9日(日) 38日間 計107日間

会場 | 瀬戸内の島々と沿岸部
 全17エリア 【全会期】直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、大島、高松港エリア、宇野港エリア、【春会期】瀬戸大橋エリア、【夏会期】志度・津田エリア、引田エリア、【秋会期】本島、高見島、栗島、伊吹島、宇多津エリア



瀬戸内国際芸術祭は、3年に1度、瀬戸内の島々などを舞台に開催される世界的な現代アートの祭典です。2010年の第1回以来、毎回約100万人の人々が訪れ、2025年には、6回目の開催を迎えます。

来訪者はアートを道しるべに島々を巡りながら、アーティスト、地域住民やボランティアサポーターと交流し、瀬戸内の持つ美しい景観や自然、島の文化や生活に出会うというスタイルが国内外の多くの方々の共感を呼んでおり、世界のツーリズム界からも注目も集めています。

2025年の開催では、新しく、香川県の沿岸部の3つのエリア、志度・津田エリア(さぬき市)、引田エリア(東かがわ市)、宇多津エリア(宇多津町)が加わり、全17エリアと過去最大の規模での開催となります。

注目の作品は、アジアのアートをテーマにした直島新美術館が来春開館するほか、高松港の賑わいづくりや海外連携プロジェクトも重点的に展開します。

全会場合わせて約200余りのアート作品が展開され、これらほぼ全ての作品を鑑賞できる作品鑑賞チケット(パスポート)を販売します。詳細は2024年10月下旬に発表しますので、お取扱い等をご希望の旅行代理店は下記までお問合せください。

また、団体、大型バス等のお車でも無理なく見学できる会場としては、小豆島をお薦めしていますが、さらに、四国本土側の高松港エリアや新しく加わった上記の3つのエリア、志度・津田エリア、引田エリア、宇多津エリアもお薦めです。

<「香川県観光注目情報」(当冊子)に関するお問い合わせ先>

香川県観光振興課(国内セールスグループ)

TEL 087-832-3362

Email kanko@pref.kagawa.lg.jp

2025
3月

新たに高松港にスーパーヨットが
係留可能な岸壁完成予定!



香川県の魅力

① 豊かな自然と芸術

瀬戸内国際芸術祭、直島 など

② 歴史と伝統に育まれる美景

栗林公園、金刀比羅宮 など

③ 絶品グルメ・伝統工芸品

さぬきうどん、香川漆器 など

高松港は市街地が近く、アクセスが抜群



※他にも県内で係留可能な施設あります

せとうちの景色も楽しめます!



スーパーヨットに関するお問い合わせ先: 香川県交流推進課 087-832-3380